

# 目の冒険

## 広がる知覚世界⑪

坂根 厳夫

身の回りに広がる美しい風景をそっくり再現してみたいというのは、だれしもが抱く夢。18世紀末にロバート・バーカーがロンドンに作ったパノラマはこの夢をかなえようとした最初の試みで、当時のロンドンの風景を円形壁面に描いたものだった。

以来パノラマの建設は世界中に広がり、19世紀にはブームにもなった。やがて大スクリーンで見られる映画の出現で次第に消滅し、いまでも健在な

## 遺跡も再現、パノラマ世界

は、1881年にオランダ・ハーグにできたパノラマ・メスタグくらいである<sup>㊀</sup>。

20世紀後半になるとその手法は、半球状スクリーンに映像を映すオムニマックスなどの技術に受け継がれ、今世紀に入ってから、デジタル技術を生かしたさまざまな環境映像も出現している。

最近では仮想現実によるパノラマ映像が、貴重な世界の文化遺産を現地に行かなくても体験できるメディアとしても注目さ

れている。

オーストラリアのビクトリア美術館では、サラ・ケンダーダインを中心に、メディア作家ジェフ

リー・ショー、カメラマンのジョン・ゴリングズらが協力し、南インド・ハンピの遺跡を高精細な立体視パノラマでみせる計画も進んでいる<sup>㊁</sup>。

また最近では、ネット上でカーソルを動かすだけで全天周の風景を観賞できるサイトも数多く

出現し、メディアの進化が人間の視界をさらに広げている。<sup>㊂</sup>はその一つ、アンコール・ワットの世界遺産の風景である

([www.world-heritage-tour.org/asia/khangkor/angkorWat\\_mid.html](http://www.world-heritage-tour.org/asia/khangkor/angkorWat_mid.html))。(エッセイスト)



㊀ 125周年のパノラマ・メスタグ内部

㊁ ハンピの遺跡を体験するプロジェクトの完成予想写真(サラ・ケンダーダイン氏提供)

㊂ アンコール・ワットの眺め(Tito Dupret/WHTour.org提供)